

会議録

会 議 名		第 15 回文化芸術振興推進評議会
日 時		平成 27 年 8 月 27 日（木） 午後 4 時 00 分～ 5 時 30 分
場 所		生涯学習センター（クリエイトホール）第 7 学習室
出席者氏名	評 議 員	白澤宏規・伊藤淳子・新堀俊明・有賀万美・牧野彦市・前田満寿美 宮崎珠子・飯塚栄子・五味渕栄子・寺山良子
	説 明 者	市民活動推進部長 大野哲宏 学園都市文化課長 小浦晴実・学園都市文化課 課長補佐 南部かや
	事 務 局	学園都市文化課 主事 露崎拓・主事 田邊紀博
欠 席 者 氏 名		西川柳時・鈴木雅徳
議 題		1 「文化振興計画」の平成 26 年度取組状況について 2 文化芸術振興計画策定について 3 その他
公開・非公開の別		「公開」
非 公 開 理 由		-
傍 聴 人 の 数		0 人
配 付 資 料 名		〔事前配付資料〕 資料 1 取組状況のまとめ 資料 2 平成 26 年度重点項目一覧 資料 3 計画の対象となる文化芸術の範囲 資料 4 （新）文化芸術振興計画の目的と現状の課題 資料 5 （新）文化芸術振興計画の施策の体系（案）について 参考資料 1 平成 26 年度文化振興計画取組一覧 参考資料 2 計画策定に関する各会議での議論の報告 参考資料 3 市政世論調査の結果報告（速報値） 〔当日配付資料〕 資料 5-2 （新）文化芸術振興計画の施策の体系（案 2）について

会 議 の 内 容	【議題1】 「文化振興計画」の平成26年度取組状況について 事務局 資料1・2説明 座長 ・重点項目として選ばれた14項目について、ご意見等あるか。 評議員 ・No.135 条例の制定については、前回の評議会にて意見のあったとおり、D評価とすることに異論はないと考える。 座長 ・重点項目については、専門部会の評価を追認するとしてよろしいか。 評議員 ・異議なし 座長 ・その他、新たな文化芸術振興計画策定に向けて、本評価方法についても再検討されると思うが、現在の評価方法についてご意見があるか。 評議員 ・134の各項目を見るのは量が多い。もう少し見やすい形としていただきたい。 評議員 ・25年度以前の評価については簡略化した形で掲載していただきたい。 事務局 ・計画策定の際に検討していく。 【議題2】 文化芸術振興計画策定について 事務局 ・資料3～5・5-2について説明 座長 ・「計画の対象となる文化芸術の範囲」と「施策の体系（案）」について大きく2つの議題に分けてご議論いただきたい。
-----------	---

議題2-1 計画の対象となる文化芸術の範囲

座長

前回、座長より提案のあった内容を踏まえて、市より提案があった。それについて皆様より意見をいただきたい。

評議員

- ・「市民の暮らしの中にある全ての生活に関わるもの」としているが、いずれ何らかの形で分ける必要があると思う。
- ・当面は上記の大きな括りで議論を進めていき、施策の体系等を検討していくなかで検討していくのが良いのではないか。

議題2-2 施策の体系（案）

評議員

- ・目的の部分について「文化芸術を通して市民が元気になる」のような言葉が必要なのではないか。

事務局

- ・裾野を広げるとは、「様々な人を巻き込む」・「次世代の育成」を含んでいる。
- ・「文化芸術の魅力を発信する」は一方的な印象を受ける部分もあり、再検討したいと考えている。意図するところは、八王子の文化芸術の魅力や良さを知っていただきたいということである。是非、ご提案頂きたい部分である。

評議員

- ・文化芸術振興計画は市側のスタンスを示し、市民参加を呼び起こすためのものであってよいと思う。

評議員

- ・「市がすること」とあるが、「市が～することで、市民が～なる」や「市が市民と協働で」等の記述があればよいのではないか。

評議員

- ・「市が市民に」という書かれ方がされているが、市民自身が何かを動かしていく視点や協働の視点が必要ではないか。
- ・各施策の項目を英語表記してみると、日本語の曖昧な部分がはっきりするのではないか。

評議員

	・市民の側からすると、市が高いところから何か言ってきたと受けとめる人もいる。そのような市民を身構えさせない伝え方を考える必要がある。 ・市が各項目を実施する際に市民を巻き込んでいく視点が必要である。 ・市は市民の意見をどのように把握しているのか。 事務局 ・市政世論調査や本評議会、日々市に寄せられる意見から把握している。 ・双方向というのは上手く伝えきれなかった部分であると思う。 ・文化芸術の主役は市民であるという立場は変わらない。一方的に伝わる部分があるため、修正していく。 評議員 ・どのように市民に情報を伝えるか、どうしたら市民がイベント等に来るかは長年の課題であると思う。文化芸術に興味のある市民と文化芸術は自分の生活には関係ないと考えている市民がいるのではないか。 ・高齢者はこれまで文化芸術活動を行ったことのある人は多く、子どもはまだ知らないという人が多いと思うので、それぞれに異なったアプローチが必要ではないか。 評議員 ・市外からの学生が多いことから、八王子の魅力を知るためにも、学生への情報発信の方法についても検討する必要があるのではないか。 事務局 ・文化芸術の魅力の発信については、少子高齢化と共に文化芸術の担い手が更に減っていくことを危惧している。文化芸術の良さや魅力を「知らない」という人に対しては、多少プッシュして伝えていく必要があると考えている。 評議員 ・文化芸術を観る人・創作する人、様々な視点を持ちながら考えることが必要だが、難しい部分もある。 評議員 ・自分の生活から八王子の文化人は着々と広がっていると感じている。文化芸術の裾野は全く広がっていないと考えるのではなく、着々と広がっていると捉えていただきたい。 評議員
--	---

	・学園都市であることから、学生の智慧を更に文化芸術の場面で活用していく必要がある。 座長 ・様々な議論を行ってきたが、協働や相互作用などをどのように組み込むかというのは課題である。また、若い力の活用をどのように組み込むかについても課題である。 【議題3】 その他 ・特になし
--	--